

権力による7-11アックス弾圧粉砕! 学内管理強化阻止!

# 竹本氏不当逮捕 → 起訴糾弾

全学の学生、教職員、そして市民、労働者の皆さん  
去る8月8日、京大至系学部「元」助手、竹本信弘(滝田修)氏が、国家権力-公安警察により、全くのデッチ上げの容疑で逮捕された。そして8月30日、津和地権は「強盗致死、建築物侵入、公務執行妨害、罪の共謀共同正犯」で起訴したのである。また、この間に関係者への弾圧は広範囲に広がり、8月28日、9月6日にそれぞれ/名が「犯人隠避」で不当逮捕されるに至っている。

我々、全学自治会同学会は、竹本氏への不当逮捕、起訴、そして支援関係者に対する不当な力入れり、逮捕などを、非難の怒りをもって糾弾する/さらに、竹本氏を「年限免職処分」をもって大学なら追放し、公安当局に売り渡した京大当局を染して許すことなどいっしょくたを宣言する!

## ★ デッチ上げ「自衛官殺害」容疑による不当逮捕糾弾!

竹本氏の逮捕 - 関係者をも含めた弾圧は、「自衛官殺害」なる事件とは全く無関係の政治弾圧である。

① 竹本氏の容疑は「71年8月、朝霞駐屯地での自衛官殺害事件に関する強盗致死罪」である。この中で、彼は「実行者」として刑が確定、服役中の菊井良治(※注)に「犯行」を指示した、とされている。しかし、当初彼は別の容疑、「71年米軍クラブハウス事件」で指名手配されており、この件について時効が成立する直前の80年5月、「指名手配」を維持するために、今回の「容疑」が適用されたのである。このように、弾圧のみを目的としたデッチ上げであるために、起訴の最大根拠は、菊井の「証言」 - それ自体、矛盾だらけであり、マンウ的ですからある一にすぎない。物証といえば、10年も前に押収した、向の関係もない電信着替を、さも昨日今日に見つけ出したかのように騒ぎたてている。今回の起訴が全くのえん罪であることは、以上の様な苦しみざれの小細工

一日本の「優秀な警察が11年かけて集めた「証言」」による、で、逆に「ハッキリ」としてきたのだ。

(※注) もはやえん罪であることが決定的となった「土田、日石、ピース缶爆弾」事件に対し、この男菊井は79年検察側の主張を「裏切ける」証言を行なっている。

② 国家権力-公安警察は、なぜこのようなデッチ上げをしてまでも竹本氏を逮捕したのか。今回の弾圧は、闘争者と人民との間の分断をはらった政治弾圧だからである。フルジョウ新聞は一言に「過激派の教祖」(毎日、朝日その他ほとんどの見出し)として竹本氏を紹介し、また同時に逮捕された奥沢氏を「過激派をかくまった女性」=「罪人」(同)としている。警察発表をうのみにしてこれらの記事には、「過激派」をアオリオりに罪人とする論理があるのみであり、彼の行動・発言への検証など全くない。(自衛官殺害容疑には疑いがある、としながらも!!)「お上にタテつくもの」=「過激派」=「罪人、悪人」なるキャンペーンを強化すること、これが今回のデッチ上げ弾圧の第1の目的である。

竹本氏は公安警察の全国捜査をはねのけ、10年間の地下潜行を貫徹した。この間竹本氏は、多くの(警察発表によると、潜行4所50ヶ所以上、支援者数100名以上)の支援をうけている。この「人民の海」と闘争者との分断、あるいは「人民の海」を干しあげること、これが第2の目的である。新聞を報道される埼玉県警の捜査は、奥沢氏を始めとする支援者に集中し、すでに逮捕翌日の9日には9ヶ所に容宅捜索を行なわれている。そしてその後、関係者90人以上ものぼる事情聴取と、3名の逮捕にまで及んでいる。以上見てきたような、闘争者と闘いに共鳴する人々へ

ワラハ  
全学自治会 同学会

の、国家権力のむき出しの憎悪、これは今回の竹本氏  
不当逮捕-起訴の正体である。

③ さらに今回の弾圧は、日帝による帝国主義的国内再編、  
なかでも治右国家への再編の先取実質化である。

中米エルサルバドルや朝鮮半島に共殺的に現われている  
ように、世界の人民の反帝民族解放斗争が前進してい  
る。その中で、政治経済の全面的危機をむかえた米帝を  
はじめとする帝国主義諸国は、軍備増強=さらなる侵略  
の準備を、その頂点として危機乗り切り-国内再編を行  
なっている。日帝も、軍備増強、教科書書きかえ=イデ  
オロギー操作、右翼的労線統一 etc. の国内再編を押し進めて  
いる。その1つの柱が、刑法「改正」を始めとする治右体系  
の再編である。目下日帝は、刑法「改正」、保釈処分「新設」  
、刑事施設法「改正」、留置施設法「新設」等の法体系の  
整備を進める一方、その内容を先取実質化しつつある。すな  
わち「精神障害者」への差別キャンペーンの敷化、デモへの  
弾圧強化等々である。

今回の竹本氏逮捕は、これらの攻撃、なかでも「連赤」裁  
判、「東アジア反日武装戦線」裁判(8月末判決予定)など  
の「過激派」解体攻撃の一環である。

★ 弾圧をはねのけ、反戦反帝斗争を闘い抜こう!

また、竹本氏を「分限免脱処分」(つまりクビ)した  
京大当局も、この大弾圧に加担したのだ。当局は竹本  
氏を思想処分することで、全共闘以降の学生運動を総  
括し、恣意的処分を全学が一致して行える体制=総  
長-時計台-文部官僚専決体制を構築し、文部省の「指導」  
やアルジョワジーの要請に応じて、学内治右管理強化  
をはじめとした大学再編の一步をふみだそうとした。  
これに対して、同学会を先頭とする学友、教官によ  
って、7年と、処分撤消斗争を闘い抜かれた。だが  
当局は、広範な処分阻止の声を踏みにじり、評議会に

おいて処分を決定して竹本氏を国家権力-公安警察に  
売り渡したのである。しかもその後、機動隊常駐化に  
よって学内の闘う人々の声を圧殺しようとし、現在も、  
時計台-時計台専決体制の下、クワガ螂法、スラッカー  
への弾圧、「交通規制」=検問体制、寢寮化攻撃など、様  
々な弾圧をなけている。我々は、国家権力-公安警察  
に手を貸した大学当局を断乎糾弾するとともに、あら  
ゆる弾圧をはねのけて闘い抜くことを再度、宣言する!

今回の弾圧も含め、反核斗争を骨抜き「平和の祈り」へ  
と陥しめようとする国家権力の策動のその一方で、三里塚斗  
争、全国寄せ場労働者の闘い、そして全国津々浦々に広がる  
反原発斗争は、反核斗争と結合しつつ、反戦反帝斗争、反  
帝斗争の新たな地平を切り拓かんとしている。こうした人民  
の闘いに連帯し、我々も帝国主義的大学再編、国内再編との  
全面的対決を開始しよう!

弾圧粉碎! 斗争勝利! 共に闘わん!